20日 木曜

ローマ

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。
12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。
12:3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。
12:4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、
12:5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。
12:6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。
12:7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。
12:8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。

Bible Reference 聖書の記述

「そういうわけですから」とは、このように神様の確かな御計画と、十字架の贖いによって救われたのですから…ということでしょう。このように揺るぎない神の絶大なる力によって救われた私たちはどのように生きるべきでしょうか。その答えが「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」ということです。

「生きた」というのは、犠牲の死ではなく、その生き方によってということです。人生をささげるということです。それはただ生きていれば良いというのではなく、「神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変え」るのです。

そこでパウロは具体的な生き方について論じていきますが、何と最初に述べるのは教会での兄弟姉妹の交わり、それも関係性についてのことです。それこそが、救われた者の生き方の基本になってゆくからでしょう。

パウロは互いを尊重し合うことを命じていますが、それは単に気持ちの問題ではなく、現実のこととして論じています。すなわち「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っている」ということです。

ここにある7つの賜物は、その気になれば誰でもできることです。ですからこれらは能力ではなく、気質に関する事柄です。クリスチャンは誰もが違った観点、感性、動機、意見を持っているのです。この違いが不一致をもたらしているように感じることもありますが、実はそうではなくこの違いが相補性であって協力の原点なのです。そうしてクリスチャン同志は一致するのです。

自分と違った観点、感性、動機、意見の人を批判せずに、尊重しましょう。さらに自分にはないものを見出して、賞賛し学びましょう。それを訓練として続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？